

グリーンケアの総合的研究（継続と発展）

公益社団法人 認知症の人と家族の会大阪府支部
〒541-0041 大阪府大阪市阿倍野区共立通 1-1-9

助成事業の概要

2ヶ月に1回開催の定例つどいのほかに、2013年4月から3月まで小規模つどい「つくしの会」を毎月1回開催した(8月と12月を除く)。小規模つどい「つくしの会」は、貴財団の多大な財政支援を頂いて認知症本人及びその家族の精神面での支援をしました。

認知症の人と家族にとって、病気の告知から終末期まで本人の苦悩と家族の苦悩は想像を絶するものがある。介護専門職であっても、いざその家族が認知症にかかった際の苦悩はいくら知識を蓄えていても、想像をはるかに超えたものであると吐露されている。施設職員は通常は8時間労働であり家族は24時間見守りが必要であり、その差は大きい。そのためには家族を精神面で十分な支援を実施してどのような病状の進展に伴う事態が発生しても、適切に対処する方法を家族の会を通じて日頃から見たり聞いたりすることが必要である。認知症になった時からグリーンケアが始まるとの講師の話でこの考え方により介護者及び被介護者の精神的なケアを総合的に考えて、大阪府のみならず府下全域で地域の家族の会の協力も得ながらグリーンケアの啓蒙(総合的な発展)に努めてきた。看取り後のグリーンケアと同じく介護中の本人及び家族に対する精神的な支援はもっとも重要である。

事業の成果

毎月実施してきた介護者家族の会「つくしの

会」では日頃の介護の苦しみや実際に起こった事例を世話人の経験談を聞いたり、大阪大学コミュニケーションデザインセンター特任教授から臨床哲学の立場から精神面のケアはどうすれば解決できるかのヒントをもらい十分納得がいくまで話し合いをしている。

介護者が涙ながらに話し、詰まりながらの話も終わるころには介護に対する心構えや自己変革をして笑顔に変わり、介護に対する力をもらって帰ることが出来る。介護も段階を踏んで終末期に向かうものであり、病状も進んでくる。その時に解決したと思っても新たな難題が持ち上げれば再度足を運んで皆さんとどういう対処方法がベターなのか、話し合いを深めて新たな介護の取り組みに心を新たに作る機会を作っている。今年は特に本人とその家族と一緒に参加するケースが多くてお互いに家族同士の助け合い話し合いの機会が増えてきたのは、つとに貴財団からの多大の支援の賜物であると感謝している。

つらいのは自分だけではないとの共通の意識が明日の頑張りにつながっている。

介護者同士の帰宅後の連絡もありお互いにつらいもの同士の助け合いで乗り切っている。

本人も出来ないことは多いが何かをしたいという意欲は持っており何かお手伝いさせてほしいと言う申し出もあり掃除ならできるとかピラ配りならできるとか大いに意思の前向きなところが現れている。

やれることをしてもらい本人が自信を持てば介護も楽になるものと確信している。

成果の広報、公表

広報として年6回の支部報「ふれあいおおさか」に掲載し会員ならびに関係機関に350部配布している。また、支部のホームページ（<http://alzosaka.wordpress.com/>）から見れるようにしている。

認知症になっても病気に対する正しい理解があれば、認知症は恐ろしい病気ではないという認識を国民の皆さんに持っていただける。そのためには地域住民とも交流して、地域一丸で徘徊があっても安心して暮らせる社会の実現をめざしたい。隠す介護をやめてオープンにして暖かい介護社会を作り出す使命がある。

そのためにはもっと講演会、つどい、電話相談等で一般社会への啓蒙活動を強化する必要がある。日本のどの地域でも平等な介護生活を享受でき、安心して過ごせる環境づくりが求められている。経済状況はあまり芳しくないため支援は先細りではあるが、ボランティア精神で何とかこの難局を乗り越えるしかないのである。これまでに培った成果を生かして工夫しながら、将来の日本の進展のために寄与したい。貴財団からの援助でこれまで多くの介護者、被介護者が恩恵を受けてきたがそれを糧にして一層の発展を期したい。

今後の展開

事業展開は今年で打ち切りとなるが、本人どうし話し合いたい、介護のつらさを分かち合いたいと希望している本人と家族の期待に応えねばならない。

細々とではあるができる範囲で小規模つどいを開催して将来への展望を図りたい。それには一層の世話人の責務と活動費がかかるが、やり方を変えながら継続していく予定である。

世界的には特効薬の開発に負うところが大きい

が、まだ治験段階で進展は見られない。

当分は介護家族にとっては厳しい道のりではあるが、精神の力でお互いの励ましあいで乗り切っていかなければならない。家族の会は本人とその家族に寄り添い、できる限り不安を軽くできるように支援していく所存です。